

「今後の県立高等学校の在り方に
係る実施計画」（素案）
に関する意見書

令和8年3月16日

広島県町村会

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」 (素案) に関する意見書

去る令和8年2月16日に広島県教育委員会が広島県議会文教委員会に示した県立高等学校の再編・統合案については、関係自治体や同窓会等、当該高等学校に関わる諸団体への事前説明が十分に行われな
いまま、先行して新聞報道により具体的な学校名が公表されたため、
再編対象となった高等学校の所在地や周辺の自治体に対し不安や反
対の声が寄せられる等、混乱を招くこととなった。

今回、再編・統合案の対象となっている各々の高等学校については、
地域の子供たちにとって貴重な学びの場であることはもとより、地域
に根差し、地域の担い手を育む拠点としての機能も有している等、地
域の振興という観点においても重要な役割を果たしているところで
あり、再編・統合により高等学校が消失する地域への影響は計り知れ
ないものがある。

県教育委員会においては、このような現状を今一度重く受け止め、
県立高等学校の再編・統合を進める際には、拙速に事を進めることな
く、関係自治体や学校関係者に対し丁寧に説明を行い、意見を収集し
たうえで判断を行うべきである。

よって、下記について、県内9町の総意として県に意見を提出する
ものである。

記

1. 地元関係者への十分な説明と慎重な検討

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」(素案)の決定にあたっては、地元・周辺自治体や生徒・保護者など学校関係者、同窓会等に対し、再編方針に至った経緯をはじめ、将来の県立高校の在り方などについて丁寧な説明を行うとともに、素案を拙速に決定することがないように、関係者の意見をしっかりと受け止め、慎重に検討すること。

2. 県立高等学校の再編・統合に係る規模や配置の在り方

都市部(中山間地域以外の地域)の県立高等学校の適正な規模については、1学年4～8学級を基本としているが、県立高等学校がこれまで地域で果たしてきた役割や地域活力への影響等に配慮するとともに、地元自治体による地元の県立高等学校の維持及び魅力づくりを図るための取組も考慮した上で、学校の規模や配置について柔軟に検討すること。

3. 地方創生やまちづくりの観点に立った県立高等学校の魅力づくりや存続に向けた取組

県立高等学校は、単に教育機関であるだけでなく、地方創生やまちづくりの観点においても貴重な資源であることから、地域の特性を踏まえた魅力ある学科や特色ある部活動の応援・推進、アクセスの向上やデジタル化の推進、老朽化した施設の更新といった設備面の整備等、生徒・保護者に選択される学校を目指すための取組について、国の交付金等を積極的に活用することも含め、支援の拡充を図ること。

また、中山間地域において、地元自治体や学校関係者等による協議会を設置し、実施している地元の県立高等学校の維持及び魅力づくりを図るための取組に対して、積極的な支援を行うこと。

令和8年3月16日

広島県町村会長 吉田 隆行